

JR東日本の公共性と収益性

森澤 太一

【要 旨】

本論文の目的は公益事業について公共性と収益性の両面から検証するところにある。対象は首都圏に広く鉄道網を持っており、経営が安定しているJR東日本とする。

鉄道業界を選定した理由としては公益事業の中でも自動車や航空などとの競争が激しいこと。加えて公共性と収益性のどちらも達成することが求められているからである。

前者は競争の発生に伴い鉄道事業のみに注力しては競争に打ち勝てないことを論じる。さらに後者は国鉄時代に公共性の実現という大義の元に作られた地方鉄道が経営を圧迫した。そのためJR東日本では、地方鉄道の存続などの公共性と関連事業の多角化などの収益性のどちらを重視するかが問題となっている。これを論じる。

結論としては地方鉄道を縮小させながら、関連事業の売上を伸ばしていることが分かった。ただ、公共性については縮小だけでなく収益性を高めることで公共性を守っている部分も存在するのではないかと考えたい。

【講 評】

「JR東日本」だけでなく、他のJR各社との比較を行った点、公共性と収益性との関連で「多角化」と内部相互補助・外部補助、構造分離改革などの諸説を整理して、自己の見解を明らかにしている点は評価できる。参考文献も含めて多くの資料（特に長期の統計やデータ）を用いた点も良い。

第5章「まとめ」は、もう少し全体の論旨と主張との関係を結論として展開できれば、なお良かったであろう。また形式も大きな問題点は見当たらないが、若干、不適切な箇所があった点は残念であった。とはいえ、本卒業論文は、形式・内容ともに「優秀卒業論文」の水準に十分に達しており、今後、卒業論文を書く学生にとって参考になるものであると評価できる。